

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年2月13日
【四半期会計期間】	第14期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	株式会社フュートレック
【英訳名】	FueTrek Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤木 英幸
【本店の所在の場所】	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号
【電話番号】	06-4806-3112（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 嶋田 和子
【最寄りの連絡場所】	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号
【電話番号】	06-4806-3112（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 嶋田 和子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第3四半期連結 累計期間	第14期 第3四半期連結 累計期間	第13期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	2,529,656	1,439,834	3,165,953
経常利益(千円)	884,539	52,821	901,520
四半期(当期)純利益(千円)	460,794	53,697	491,191
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	535,639	25,172	622,346
純資産額(千円)	3,268,520	3,241,953	3,359,611
総資産額(千円)	3,648,272	3,496,497	3,834,855
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	49.48	5.77	52.74
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)	-	5.74	52.65
自己資本比率(%)	85.7	89.0	84.0

回次	第13期 第3四半期連結 会計期間	第14期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	6.12	13.50

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、第13期第3四半期連結累計期間において、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
4. 平成24年10月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、日銀の金融緩和を受けた円安・株高の進行、消費税増税に伴う経済対策の効果などから景気の緩やかな回復基調が見られましたが、当社グループの主な事業分野である携帯電話業界におきましては、携帯電話の国内出荷台数（4月～11月）がスマートフォンを含め前年比で減少となりました。

このような環境のなか、当社グループは音声認識事業を柱として事業を展開し、携帯電話業界以外の業界への事業拡大に取組みました。

その結果、カーナビ業界、家電業界、教育現場での採用が決定し、保険販売業務における業務日報ソリューションでも実績を得ることができました。また、自動車業界におきましては、新しいコミュニケーションの研究開発から創られた「0oA-insight（オーア・インサイト）」に技術協力で参画したことをはじめとして、モーターショー向け展示などに対し積極的な技術協力を行いました。しかしながら、市場における音声認識関連技術を搭載した商品の拡がりは未だ十分ではなく、厳しい事業環境にあります。

当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績としましては、売上高は1,439,834千円（前年同四半期比43.1%減）、営業利益は45,887千円（同94.8%減）、経常利益は52,821千円（同94.0%減）、四半期純利益は53,697千円（同88.3%減）となりました。

セグメントごとの当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、次のとおりであります。

セグメントの名称	第13期 第3四半期連結累計期間 (千円)	第14期 第3四半期連結累計期間 (千円)	増減 (千円)
ライセンス	2,340,661	1,281,460	1,059,200
音声認識・UIソリューション	1,878,301	943,531	934,770
音源	181,356	135,105	46,250
CRMソリューション	281,003	202,823	78,179
ライセンス以外	188,995	158,373	30,621
基盤	78,816	48,923	29,893
カード	110,178	109,450	727
売上高合計	2,529,656	1,439,834	1,089,821

ライセンス（音声認識・UIソリューション事業分野、音源事業分野、CRMソリューション事業分野）

売上高は1,281,460千円（前年同四半期比45.3%減）となりました。

音声認識・UIソリューション事業分野の売上高は943,531千円（同49.8%減）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、売上に大きく寄与したカスタマイズ業務による収入の減少及びロイヤルティ収入が減少したことによるものであります。

音源事業分野の売上高は135,105千円（同25.5%減）となりました。株式会社NTTドコモとの音源IPライセンス契約に基づくロイヤルティ収入は、フィーチャーフォンの減少により国内市場における音源搭載台数が減少傾向となっており、前第3四半期連結累計期間と比較し減少となりました。

CRMソリューション事業分野の売上高は202,823千円（同27.8%減）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、受託開発の売上が減少したことによるものであります。

ライセンス以外（基盤事業分野・カード事業分野）

売上高は158,373千円（前年同四半期比16.2%減）となりました。

基盤事業分野の売上高は48,923千円（同37.9%減）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、カスタマイズ業務による収入が減少したことによるものであります。

カード事業分野の売上高は109,450千円（同0.7%減）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、英語リスニング模擬試験用メモリーカードの書込みによる収入が微減したことによるものであります。

（2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（3）研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は201,428千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

（4）生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、ライセンスにおける音声認識・UIソリューション事業分野の販売実績が著しく減少いたしました。その内容については「（1）業績の状況」に記載のとおりであります。

（5）経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しについて重要な変更はありません。

（6）資本の財源及び資金の流動性についての分析

資金の状況

当第3四半期連結累計期間における資金の期末残高は、買掛金の支払、未払法人税等の支払、配当金の支払（少数株主への配当金を含む）等により前連結会計年度末に比べて33,605千円減少し2,289,626千円となりました。

資金需要

当社グループの運転資金需要の主なものは、売掛金、買掛金の回転期間差異に基づく運転資金及び研究開発資金であります。

財政政策

当社グループの運転資金につきましては、自己資金で対応することを原則としております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	31,744,000
計	31,744,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,459,200	9,459,200	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数 100株
計	9,459,200	9,459,200	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	9,459,200	-	716,570	-	914,795

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 146,400	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,311,200	93,112	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 1,600	-	-
発行済株式総数	9,459,200	-	-
総株主の議決権	-	93,112	-

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社フュートレック	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号	146,400	-	146,400	1.55
計	-	146,400	-	146,400	1.55

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、前事業年度の有価証券報告書に記載した事項を除き、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	管理部長	木道 嘉之	平成25年7月5日

(2) 役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	テレマティクス&ホーム アプライアンス 事業部長 兼 管理部長	取締役	テレマティクス&ホーム アプライアンス 事業部長	嶋田 和子	平成25年7月5日

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,023,232	2,189,626
売掛金	567,599	340,502
有価証券	1,300,000	100,000
仕掛品	4,378	28,049
その他	42,620	67,750
貸倒引当金	2,247	1,118
流動資産合計	2,935,582	2,724,809
固定資産		
有形固定資産	104,590	93,993
無形固定資産		
のれん	182,313	162,490
その他	205,469	178,694
無形固定資産合計	387,783	341,184
投資その他の資産	406,898	336,509
固定資産合計	899,272	771,687
資産合計	3,834,855	3,496,497
負債の部		
流動負債		
買掛金	89,199	27,285
未払法人税等	172,218	75,291
賞与引当金	10,579	29,009
その他	167,417	98,769
流動負債合計	439,415	230,355
固定負債		
繰延税金負債	35,828	24,188
固定負債合計	35,828	24,188
負債合計	475,244	254,544
純資産の部		
株主資本		
資本金	716,570	716,570
資本剰余金	914,795	914,795
利益剰余金	1,586,289	1,495,638
自己株式	69,963	69,963
株主資本合計	3,147,690	3,057,039
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	74,834	53,272
その他の包括利益累計額合計	74,834	53,272
新株予約権	17,861	27,642
少数株主持分	119,224	103,998
純資産合計	3,359,611	3,241,953
負債純資産合計	3,834,855	3,496,497

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	2,529,656	1,439,834
売上原価	716,256	523,300
売上総利益	1,813,400	916,534
販売費及び一般管理費	933,058	870,646
営業利益	880,342	45,887
営業外収益		
受取利息	2,660	2,155
受取配当金	2,454	3,758
その他	379	1,054
営業外収益合計	5,493	6,968
営業外費用		
支払利息	1,296	34
営業外費用合計	1,296	34
経常利益	884,539	52,821
特別利益		
固定資産売却益	125	-
投資有価証券売却益	-	64,456
特別利益合計	125	64,456
特別損失		
固定資産除却損	-	6
投資有価証券評価損	60,137	-
特別損失合計	60,137	6
税金等調整前四半期純利益	824,528	117,272
法人税、住民税及び事業税	290,148	79,853
法人税等調整額	19,933	9,315
法人税等合計	310,082	70,538
少数株主損益調整前四半期純利益	514,445	46,733
少数株主利益又は少数株主損失()	53,651	6,964
四半期純利益	460,794	53,697

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	514,445	46,733
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,193	21,561
その他の包括利益合計	21,193	21,561
四半期包括利益	535,639	25,172
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	481,987	32,136
少数株主に係る四半期包括利益	53,651	6,964

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	115,663千円	105,870千円
のれんの償却額	19,775千円	19,823千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	97,784	利益剰余金	2,100	平成24年3月31日	平成24年6月25日

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	144,348	利益剰余金	15.50	平成25年3月31日	平成25年6月24日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	ライセンス	ライセンス以外	調整額(注1)	合計(注2)
売上高				
外部顧客への売上高	2,340,661	188,995	-	2,529,656
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	7,785	7,785	-
計	2,340,661	196,780	7,785	2,529,656
セグメント利益	855,369	17,187	7,785	880,342

(注)1.セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2.セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	ライセンス	ライセンス以外	調整額(注1)	合計(注2)
売上高				
外部顧客への売上高	1,281,460	158,373	-	1,439,834
セグメント間の内部売上高又は 振替高	2,153	26,571	28,724	-
計	1,283,614	184,944	28,724	1,439,834
セグメント利益	9,300	7,862	28,724	45,887

(注)1.セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2.セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	49円48銭	5円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	460,794	53,697
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	460,794	53,697
普通株式の期中平均株式数(株)	9,312,800	9,312,800
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-円	5円74銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	47,102
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注)1.平成24年10月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

2.潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第3四半期連結累計期間において、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月7日

株式会社 フュートレック

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

井上 嘉之

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

目細 実

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フュートレックの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フュートレック及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。